



# 城南中だより

学校教育目標

希望と愛をはぐくむ  
美と活力の学校

3月卒業式号 令和7年3月14日発行 第14号

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 <http://jounan-j.saitama-city.ed.jp/>

TEL 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

卒業おめでとうございます

未来を切り拓き、明るく生き抜くことを祈念、期待しています

## 「気の置けない仲間」のありがたさ

校長 吉原 誠 士

高校に入学後からしばらくの間、時間的にも金銭的にも余裕がなく、教員になってからも慌ただしい毎日で「いつもバタバタしている」状態でした。こうなると気持ちにもゆとりがなくなります。しかし仕事に就いて3年程経って、中学時代の友達と会う機会を得ました。私は17歳の時に墨田区から埼玉県に引っ越してしまい“地元”を忘れかけていたのです。久し振りにライバル関係や立場の上下も気にせず楽しく会話ができて、旧友のありがたさを実感しました。高校・大学時代の同級生は大人としての交友関係で、少々違った意味があった気がします。

中学校には小学校で一緒だった友人もいますから、そこら辺を駆け回っていた“悪ガキ的”感覚にも通じています。お互いにどのような人間なのかはバレていますし、恥をかいた経験も格好のつかないエピソードも共有されてしまっています。実際、今でも会うたびにつまらないネタ（「吉原は〇〇のことが好きだった」「足が速いことだけが取り柄だったなど）で爆笑しています。また、現在直面している困難についても隠し立てなく愚痴ったりこぼしたりできます。見栄や偉そうな物言いとは無縁の世界なので晴れ晴れとした気分になり、翌日の仕事に向かえるようにもなります。

「気を遣わなくとも分かり合った仲間」のことを「気が置けない友人」（または「気の置けない友人」と表現します。十数年前に文化庁が行った調査では、50%近い人が間違って「遠慮したり気を遣ったりしながら接する必要がある相手」と回答しています。「置けない」に含まれる「ない」という否定部分を引きづってしまうようですが、「置く」には「一定の時間や間を設ける」の意味が含まれることがわかると「距離を置く必要がない友達」と解釈できるようになります。ちなみに「遠慮しながらつきあう」相手は「気の置ける仲」と表現します。

卒業する皆は、将来何かで落ち込んだ時にこれまで温かく関係を築いてきた「気の置けない友人」の存在を思い出すことになるでしょう。これまで互いを尊重しようとか、いじめを根絶しようと言われたことの意味も、深く理解できるようになるでしょう。私たちヒトは集団で社会を築きながら生きる生物なのです。1年生、2年生にも自分たちが大切にしてきた「安全と安心を保證する振舞い方」を教え伝えてください。これまでいろいろな体験を味わう時に、必ず友の存在があったはずですよ。「気が置けない友人」、ありがたいものです。同窓会をやる時は全員に声をかけてくださいね！

### 《保護者の皆さまへ》

城南中学校教職員一同、卒業を心からお祝い申し上げます。これまでのご支援、ご協力に深く感謝いたします。また、皆さまからの要望に覚えきれなかった場面にあっても、ご理解とご配慮いただいたことには申し訳ない思いもがございます。反省を活かしながら、今後の教育活動に励んでまいりたい所存です。3年間ありがとうございました。

## 申し訳ない思いを残しつつ公式発表

卒業生の皆は体育祭後に私が教室を訪問してお詫びしたことを覚えていることと思います。返す返すも申し訳ない気分一杯です。

3年生として中学最後の体育祭を総力戦として闘い、閉会式での結果発表を聞く、ところがその後で得点計算が違っていたということで順位が入れ替わったのでした。

その後、この件についての公式アナウンス（「学年だより」等）はしていませんでした。戦いの当事者にとってはとても辛かったのは明らかでしたし、担任の先生方も苦しんでいました。

卒業の日を迎えてしまいましたが、ここで結果を確定させましょう。このお話が将来も話題になることでしょう。変わらないのは両クラスの奮闘、努力への称賛です。力の限りを尽くしてくれたみんな、どうもありがとう。在校生にとってもよいお土産になったことでしょう。

令和6年度 体育祭  
(10月26日実施)

<b>第1位</b>	<b>1組</b>	<b>第2位</b>	<b>2組</b>
<b>得点</b>	<b>230点</b>	<b>得点</b>	<b>218点</b>

※大縄の得点1組20点、2組12点を計算の際に逆にしてしまったため

### 校長式辞「未来に希望をもつために」(要約)

「世の中は、随分速く変わってゆく。私がこの世に生きてきてからの六十数年の間にも、何度も大きな変化があった。しかも、変化のテンポは、あとほど速くなっている。この調子でゆくと、これから先、どう変わってゆくの、空恐しいくらいである。」(中略)「予想外の変化がしばしば起る。」(中略)「私たちは一体、どう考えたらよいのか。」これは日本で最初にノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士により1971年に書かれた文章である。

皆も「予測が困難な時代だ」と聞かされてきたことだろう。五十年前も現在も人々が同じように「将来は予想できない大変な時代だ」と心配していたように見える。すると「これまで何とかなっていたのと同じようにこれからのなるようになる、心配したって仕方ない」と考えてしまいそうになる。

実際には「何とかなつた」訳ではなく、人々は「何とかして」乗り切ってきた。私は1971年には小学生で一軒の家の三部屋を三家族で分けて住んでいた。共同台所、共同便所、八畳間に親子四人で暮らしていた。そういう生活から脱出しようと父母や同世代の人々は必死になった。自分の生活を、日本の社会を向上させようと皆で努力していた。「大切なのは疑問を持つことを忘れないことである」とはアインシュタインの言葉だが、「疑問を持ち続ける」とは「考えるのをやめない」ことであろう。その言葉を知っていたかどうかは別にして、当時の人々が常に疑問を持ちながら、思考によって解決策を見出し、希望をもって未来に臨んでいたのだと思う。

**つまり、「未来に希望を持つ」ということは「疑問を持ち続け、考え続ける」ということである。**

少子高齢化、労働人口減少、温暖化や脱炭素に代表される環境問題、そしていつ襲うかもしれない新たな自然災害のことなど現在の方が事態が深刻だとすれば、皆は昔よりも多くの思考を求められていることにもなる。

すると、今度は技術の進歩がかえって心配な時代である。コンピュータは理解の手助けや記憶の補助としての活用で人類のために大いに役立つものだったが、脚光を浴びる生成AIは我々から思考の機会を奪いそうな勢いなものだから。そもそもAIを作ったのは人間の脳である。AIをコントロールしたり、新たな機械を生み出したりできるような脳が失われてはならない。若者に言う！**若い内は脳を鍛えることを忘れてはならない。**音楽やスポーツの話为例にすれば分かりやすいことだ。ではこれからの皆が脳を鍛えるために何ができるか。

まずは**考えるにあたってその“タネ”となる「知識」の習得、そして五感を通じて本物に接する「直接体験」**であろう。知識や体験をイメージとして脳の中に取り込む。また、二足歩行により手を使うことができるようになり、そこから脳が発達したという人類の進化説を思えば当然のことながら、「書いて書いて書きまくる」に代表される手での作業は欠かせない。見ただけで覚えられる、聞いたことは忘れないのはごく一部の人だけだ。

もう一つは**「対話」や「会話」の機会を多く持つことだ。**頭の中にあることを自分の言葉にして自分以外の人に伝える努力をする、自然と思考する癖がつく。お年寄りを一人きりにしてはならないというのは、相手がいて話をしていることで脳が活性化する意味があるからであり、多少うるさいと言われても会話をやめる訳にはいかない。 ~ **卒業おめでとう！ 生き生きと生きよ！ 頑張れ！ 未来を切り拓け！ 思考を止めるな！**